

オーストラリア マンゴー産業の成功と課題

FreshPlaza 2023年12月12日

オーストラリア北部の緑豊かな風景の中に建つマンブルー社は、オーストラリア農業の強靱さと独創性の証である。マンゴーの象徴的な品種であるケンジントンプライドとR2E2のオーストラリア最大の生産者である同社の執行役員マリー・ピコニー氏は、今季のマンゴーシーズンの成功と課題について内部関係者の視点を披露する。

同氏の農業への取り組みは、天候への理解と適応に深く関係している。今年、ノーザンテリトリー(北部準州)とクイーンズランド州にある同社の農場は、対照的な状況に直面した。ピコニー氏は、「ノーザンテリトリーの弊社の農場の1つでは生産量が通常より少し少なかったが、別の1つの農場ではすべての記録を更新し、その農場でこれまでに経験した中で最高の収量を達成した」と説明する。(以下「」は同氏の発言)

サイクロン『ジャスパー』がクイーンズランド州最北部の沖に迫っているため、ピコニー氏はさらなる天候上の問題を予想している。同社の対応は素早く、革新的であり、暑さをしのぐために夜間の収穫を行っている。「毎年状況が異なる。弊社では、マンゴーが花を咲かせ果実をつけるために何が必要かを理解し、気象条件をできる限り管理している。」

これらの課題にもかかわらず、マンブルー社のマンゴーの品質とサイズは驚くほど一定している。ピコニー氏は「弊社では樹上のマンゴーを1つ1つ、最適な大きさになるまで大切に育てている。今年は、サイズや糖度に大きなばらつきはなかった」と自信を持って語る。この品質へのこだわりは、同社の厳格な収穫方法に反映されており、最高の果実だけが市場に出荷されることを保証している。

オーストラリア人のマンゴーへの愛着は今も強いとピコニー氏は言う。「今年は収穫量が少なく、供給が不足していることは間違いないが、弊社が栽培している品種に対する需要は旺盛である。」同社は、世界市場にも対応し、アジア、北米、中東に輸出している。主な輸出品種はケンジントンプライドとR2E2である。

ピコニー氏は、従来からクリスマスシーズンにマンゴーの売り上げが急増することを強調する。「マンゴーの売り上げは12月に急上昇する。しかし、今年はケンジントンプライド品種のマンゴーの供給が異常に少なく、クリスマスシーズンの出回り量に影響が出ている。」価格設定も重要な役割を果たす。「需要は旺盛だが、価格が高騰しすぎると需要が先細りになる可能性がある。弊社は、適正な価値を得ることと、消費者の手が届くこととのバランスを心掛けている。」

2005年の創業以来、同社は飛躍的に成長し、現在ではクイーンズランド州とノーザンテリトリーの肥沃な地域に7つの農場を所有している。2015年にテルストラ社のビジネスウーマン起業家賞を受賞したピコニー氏は、「弊社の旅は、情熱と献身を持って、常に品質を追求し続けるものであった。6万5千本の果樹を植えた弊社最大のキャサリン地区の農場をはじめ、弊社の農場は最高の水準に管理されている。弊社は、オーストラリアのコールズ(大手スーパー)でしか手に入らない最高のマンゴーを顧客に届けることに努めている」と話す。

同社がマンゴー業界の困難さを乗り越えていく中で、その物語は常に、強靱さ、革新性、品質への強いこだわりを持ち続けている。マリー・ピコニー氏のリーダーシップの下、同社はマンゴーを栽培するだけでなく、オーストラリア農業全体の中の重要な一部門を育てている。

執筆者: ライアン・メイオン

訳注: この翻訳は情報の提供を目的としており、特定の企業や製品を推奨するものではありません。